

かふさ & お米の学習

—小野小—



水田で台鴨の様子をみる子ども達

総合的な学習の時間で米づくりを行っている小野小学校（高間久夫校長）の5年生32人が後援にある社会福祉法人上州「水土舎」（金谷透理事長）を訪れ、合鴨農法について学んだ。

この農法は合鴨の習性を利用したもので、☆除草☆害虫防除（雑草や害虫を餌として食べる）☆排泄物が稲の養分☆泳ぐことにより土がかくはんされ酸素を根に供給する☆

同時に根を刺激し肥料の吸収をよくする（中耕）☆泳ぐことにより土がかくはんされ、根を刺激し稲の苗の分結を促すといった点で、これら一つ一つの詳しい説明を金谷理事長から聞いた子ども達は近くにある水田（10アール）で合鴨の様子を観察した。

高間校長は「なんでも実際に見て、感じる事が大切で、学校でもモミから苗をつくる無農薬農法を行っていますので今回の見学は食の安全性について深く学べたと思います」と話された。